

最新の冷媒問題への対応と展望 2021

※2022年3月4日に収録したセミナーの再配信です

主 催 : 公益社団法人 日本冷凍空調学会
 協 賛 : (公社)空気調和・衛生工学会, (一社)日本冷凍空調工業会,
 (一社)日本冷凍空調設備工業連合会, (一財)日本冷媒・環境保全機構
 オンデマンド配信期間: 2022年5月16日(月)~5月30日(月)
 定 員: Web 上での講演ビデオの配信ですので定員はありません

パリ協定、モントリオール議定書キガリ改正の HFC 削減スケジュールを実現するためには、微燃性冷媒や自然冷媒を積極的に活用していく必要があります。2018年7月にオゾン層保護法が改正され代替フロン生産量・消費量の段階的な切り下げが必要となりました。また、2019年6月にフロン排出抑制法が改正され機器廃棄時の冷媒回収が厳格化されました。2020年10月には、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことが宣言され、さらに2021年4月に開催された気候変動に関する首脳会議(サミット)において、温暖化ガスの排出削減目標を13年度比で46%減を目指すとの表明がありました。それまでの目標が13年度比26%減であったことを考えると7割以上の引き下げであり、関係者から見ても挑戦的な目標であることは容易に理解できます。

今後、更なる新冷媒の検討が必要となる状況であり、今回はこれらの取組み状況と将来展望について紹介します。

前回の配信を見逃した方はふるって参加されますようご案内申し上げます。

1 基調講演

1.1	冷凍空調用冷媒をめぐる最近の状況と展望	今村 友彦 公立諏訪東京理科大学	約 60 分
1.2	オゾン層保護法の改定と今後の展開	経済産業省化学物質管理課オゾン層保護等推進室	約 50 分

2 冷媒問題への対応

2.1	A2L 冷媒使用空調機のリスクアセスメントと その後の状況	藤本 悟 (一社)日本冷凍空調工業会 微燃性冷媒対応リスクアセスメントWG	約 40 分
2.2	A3 冷媒を使用した内蔵ショーケースの リスクアセスメント及び安全規格	山下 浩司 (一社)日本冷凍空調工業会 内蔵ショーケース リスクアセスメントWG3	約 40 分

3 次世代冷媒・機器開発の状況

3.1	自然冷媒 CO2 を採用した業務用コンデンシング ユニットの開発	西村 耕世 三菱重工サーマルシステムズ(株)	約 34 分
3.2	A2L 冷媒漏えい検知用ガスセンサーシリーズの開発 (MOS/NDIR)	豊田 雅史 フィガロ技研(株)	約 34 分
3.3	未利用エネルギーを熱源とした産業用高温ヒートポンプの 開発 (低 GWP 冷媒を用いたヒートポンプ試作機の開発)	木村 健 (株)前川製作所	約 30 分
3.4	性能と低 GWP を両立する新冷媒「クリアード」の開発	午坊 健司 ダイキン工業(株)	約 22 分

参加費(税込): 本学会・協賛団体の法人・個人会員 18,000 円 冷凍技士 10,000 円 非会員 25,000 円
 会員学生 2,000 円 非会員学生 4,000 円

申込方法: 本 Web セミナーは冷凍 CPD 会員登録者のみ受講できます。

未登録者はホームページより「冷凍 CPD 会員」登録後にセミナーにお申し込みください。

申込 URL → <https://jsrae-edu.org/> 参加受付は配信終了日の一週間ほど前に締め切ります。

Web セミナー申込前に【[視聴環境確認ページ](#)】より、テスト動画が再生できることを必ずご確認ください。
 お申込み頂いた配信期間中は何度でも講演動画視聴と資料の DL が可能です。

備考 1: 受講する為には、冷凍 CPD 会員の登録が必要となりますが、登録は無料です。

備考 2: 申込完了後に届く自動メールから「請求書」がダウンロードできます。

セミナー参加費の振込先銀行口座は請求書に記載されています。

備考 3: 学会でお振込み確認ができた後、或いはクレジット決済で申し込みを完了された方は WEB から「領収書」をダウンロード、印刷できます。

この領収書は従来のセミナー・見学会参加券同様、5 枚集めることで年次大会へ 1 名無料で参加することが出来ます。(有効期限: セミナー開催日から 3 年間)